

## 温州萎縮ウイルスの簡易迅速検定キット

我が国のカンキツ栽培では多くのウイルス病が問題になりますが、特に被害が多いのは温州萎縮病です。温州萎縮病に罹病した樹は、新梢の節間が詰まり、春葉がスプーン状になるなどの症状を呈し、次第に樹勢が衰えて収量、品質ともに低下します。病原である温州萎縮ウイルス（SDV）は接木により伝染しますが、さらに、罹病樹から周囲のカンキツに土壤伝染します。防除には、ウイルスを保毒していない苗木の使用と、栽培圃場における保毒樹の伐採が必須です。そのためには、ウイルスの保毒を見分ける必要がありますが、従来のウイルス検定法は専門の技術や機械などを必要とします。（独）農研機構九州沖縄農業研究センター、（独）農研機構果樹研究所、佐賀県、福岡県、㈱ミズホメディーは共同で、農家でも簡単・迅速に温州萎縮ウイルスを検定できるキットを開発したので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 本キットは、カンキツの葉などをすり潰して汁液を抽出するための簡易磨砕容器（図1）と、汁液中のウイルスを検定するテストプレート（図2）から構成されます。テストプレートに敷かれた膜の特定の位置（検出ライン）には温州萎縮ウイルス（抗原）と特異的に反応する抗体が固定されています。
2. 春枝の新芽、新梢先端、あるいは展葉直後の新葉を採取して簡易磨砕容器に入れ、磨砕用緩衝液を加えて磨砕します。容器はソフトラバー製で、内側に凹凸があるので、容器の外側から指で葉を磨砕し、汁液を抽出することができます。テストプレートに汁液を滴下するときは、滴下用のフタを用います。滴下用のフタにはフィルターが付いており葉の残渣が除かれます。
3. テストプレートの汁液滴下部に汁液を滴下すると、汁液は毛細管現象で滴下部の反対方向に移動し、ウイルスが含まれている場合には、検出ラインにバンドが形成されます（図2）。



図1 簡易磨砕容器

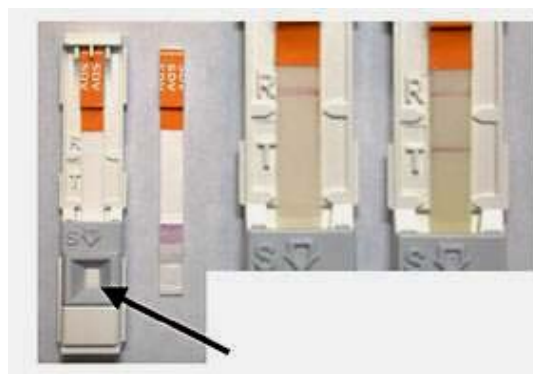


図2 テストプレート

滴下部位（矢印）に汁液を滴下し、ウイルスがあると検出ライン（T）の位置にバンドが現れる。

### ☆ 活用面での留意点

本キット（SDVクロマト）は㈱ミズホメディーから市販されています。詳細については、（独）農研機構果樹研究所カンキツグリーンング病研究チーム（電話：029-838-6544）にお問い合わせください。  
（農林公庫 技術参与 後藤 明彦）